

第2学年1組 英語科 学習指導案

期 日 平成21年10月6日(火)第5校時
場 所 球磨村立球磨中学校
学 級 2年1組
指導者 教諭 蓑手 浩平

1 単元名

「Unit 5 A park or a Parking Area?」(*NEW HORIZON English Course Book 2*)

2 単元について

- (1) 本単元の内容は、公園に放置された自転車による事故をきっかけに起こった「公園を維持すべきか、それとも公園敷地に駐輪場を建設すべきか」という議論に関するものである。

言語材料としては、従属接続詞である(*if, that, when, because*)をまとめて扱う。これらの従属接続詞を学習することにより、長文などの内容理解にもつながっていく。また、自己表現において、従属接続詞を活用することは英語の幅広い運用力へとつながるため、既習の内容と関連付けながら授業を進めていきたい。しかし、文が長くなることにより、生徒がつまづく可能性が考えられるため、これまで同様英文の構造や区切りを意識させながら指導していきたい。

- (2) 本単元に係る生徒の実態は次のとおりである。

学級の雰囲気は全体的に明るく、意欲的に学習に取り組む生徒が多い。また、授業中の発言も多く、あいさつ、音読活動においても大きな声でしっかりと発音しようとする生徒が多い。英語学習に対して、関心・意欲の高い集団である。また、男女の仲が良く、ペアでの学習に対しても積極的に取り組む姿勢が見られる。しかし、英語学習も1年半が過ぎ、特に「書くこと」において個人差が大きくなってきている。そこで、授業展開や教材の工夫により、生徒たちに可能な限り英語を通して表現し理解を深められたという成就感を持たせ、さらに表現したことが自分のものとして定着することのできる授業を展開したい。

また、生徒の英語学習に対する本学級生徒のアンケート結果は以下のとおりである。

- 1, よくあてはまる 2, わりとあてはまる 3, あまりあてはまらない 4, まったくあてはまらない
(31名)

質 問	1	2	3	4
1 英語を「聞くこと」は、好きである。	7	16	7	1
2 英語を「聞くこと」は、得意である。	0	10	17	4
3 英語を「話すこと」は、好きである。	10	15	3	3
4 英語を「話すこと」は、得意である。	5	8	14	4
5 英語を「読むこと」は、好きである。	11	8	11	1
6 英語を「読むこと」は、得意である。	4	8	13	6
7 英語を「書くこと」は、好きである。	10	9	10	2
8 英語を「書くこと」は、得意である。	7	7	11	6

アンケート結果より、生徒たちは4技能いずれにおいても個人差が大きいことが分かる。「書くこと」については、苦手意識を持っている生徒が他の技能に比べ高くはないが、実態は「書くこと」を苦手としている生徒が非常に多い。そこで、本単元におけるスピーチ原稿作成では、モデルを示すなどの対応が必要であると考えられる。

(3) 本単元の系統は次のとおりである。

《1年生》

Koji doesn't speak Chinese, and his friend Bin doesn't speak Japanese.

Yes, but I don't have a car now.

So we move quickly.



《2年生》

If you can go, please call me.

I think that we need a parking area.

People complained when a bike fell on Kumi.

I am against the plan because we need our parks.

They fly as high as a bird.



《3年生》

She had cancer while she was writing *Silent Spring*.

As he fell, he saw the whole tree for the first time.

(4) 指導にあたっては、次の点に留意する。

- 文型練習においては、視覚的に支援するピクチャーカードを用いたモデルダイアログからの導入、パターンプラクティスと、音声による口頭練習を十分に行いたい。その際ストップウォッチを使いタイムプレッシャーをかけることで、集中力と学習意欲の持続を図りたい。また、口頭練習にとどまらず、「言えたことを書く」ためのライティングの時間を設け、知識の定着を図りたい。
- 本文の内容理解においては、Starting Out及びDialogでは「聞くこと」の能力を高めるために、ピクチャーカードを用いた導入と口頭での簡単なQ&Aから、Reading for Communicationでは「読むこと」の能力を高めるために、ワークシートによる日本語・英語を交えたQ&Aから授業を展開したい。
- スピーチ原稿作成による表現活動では、既習の表現と本単元で学習する従属接続詞を用いてつながりのある文章にするため、生徒が考えやすいトピックを設定し、必要と思われる単語やモデル文を提示し、スローラーナーが能動的に取り組めるための手だてとしたい。
- すべての活動において、座席の意図的配置、ペア・グループなどの様々な学習形態、また、スモールティーチャーの活用など、教え合い学び合う姿勢、態度を育成したい。

〈人権教育の視点〉

ペア学習やグループ学習を取り入れ、お互いに学び合い、できるまで協力できるような指導・支援を行う。また、一人一人が活躍できる機会を確保し、教師と生徒、生徒同士での肯定的な評価を行い、一人一人ができたことを賞賛したい。

〈思考力、判断力、表現力の育成に関する視点〉

外国語科においてはこれらを高めるために、「発信力」の育成が求められる。「発信力」の育成においては、書かせる指導が必要であり、自分の思いや考えを説明する英文を書くことを通じて自分の考えを振り返らせる指導、言語の基盤となる語彙力を高める指導を行いたい。

〈熊本型授業の具体的展開に関する視点〉

目標であるスピーチ原稿の作成において、生徒は既習の基本文を基にして自分の思いを能動的に書くことで表現していく。そのため、基本文を学習する際には、パターンプラクティスやライティング活動における徹底指導を行い、そこで習得した内容を能動的に表現するという展開を行いたい。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	既習の表現を用いた文章に従属接続詞 (if, that, when, because) を用いた文章を加え、スピーチの原稿を作成することができる。
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	従属接続詞 (if, that, when, because) の形・意味・用法を理解し、それらを用いて表現しようとする。
表現の能力	従属接続詞 (if, that, when, because) を用いて話したり、書いたりすることができる。
理解の能力	従属接続詞 (if, that, when, because) が用いられている文を読んだり、聞いたりして理解することができる。
言語や文化に関する知識・理解	○従属接続詞 (if, that, when, because) の形・意味・用法を正しく理解することができる。 ○投書の意見を読み、それらを参考にして簡単に自分の意見を述べることができる。

4 指導・評価の計画（7時間取扱い）

次時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 *言語活動とその留意点	評価項目（方法）
1 1	○従属接続詞 (that) の用法	・ピクチャーカードを用いて視覚的に導入し、意欲を高めたい。 ・ペア、グループ活動を通して学び合いの姿勢を育成したい。 *thatを用いて英文1文を書く。	○従属接続詞 (that) を用いて、文意の通じる英文1文を書くことができる。 【言語や文化に関する知識・理解】(ワークシート)
2 2	○従属接続詞 (if,when,because) の用法	・ペア、グループ活動を通して学び合いの姿勢を育成したい。 *if, when, becauseを用いて英文を書く。	○従属接続詞 (if,when,because) を用いた小テストの問題に3問正解することができる。 【言語や文化に関する知識・理解】(小テスト)
3 3 本時	○従属接続詞 (when) を用いてのスピーチ原稿作成	・モデル文を提示することで、書くことが苦手な生徒への支援を行いたい。 *基本文を基に英文を作り、スピーチ原稿を書く。	○本時の基本例文を使って英文を作る。 【表現】(スピーチ原稿)
4 4	○由香のファックス内容 (p.50) 及びマイクと絵美の対話の内容 (p.51) を理解する。	・ピクチャーカードを使いながらリスニングでの内容理解を深めたい。 *教科書p50,51を読む。	○教科書 p50,51 を読むことができる。 【表現の能力】(音読テスト)
5 5 6	○市の決定内容 (p.52) 及び新聞に掲載された投書の内容 (p.53) の内容を理解する。	・日本語・英語を交えたワークシートによる Q & A によって内容の確認を行いたい。 ・コースに合わせた音読を行い個に応じた支援を行いたい。 *教科書p52,53を読む。	○ワークシートの Q & A に7割正解することができる。 【理解の能力】(ワークシート)
6 7	○本単元で学習した従属接続詞の総復習	*単元テストに答える。	○単元テストに7割正解することができる。 【理解の能力】【表現の能力】 【言語や文化に関する知識・理解】(単元テスト)

5 本時の学習

(1) 目標 ○従属接続詞whenを用いた文章を含む，スピーチ原稿を書くことができる。

(2) 展開

過程	学習活動	徹底能動	主な発問・指示等	教師の指導及び評価	備考
導入 5分	1 挨拶	徹底	○Hello, everyone. How are you?	○大きな声で元気よく行わせ， 学習の雰囲気作りに心がける。	教材文
	2 ウォームアップ	能動	○ペアで基本文を言い 合おう。	○制限時間を設け，集中して 活動させる。	
展開 44分	3 本時の基本文の確認	徹底	○前回学習した接続詞 "when"について復習 しよう。	○ワークシートを用いて接続 詞"when"を用いた文章の形 ・意味・用法を確認させる。	ワーク シート 1
	4 基本文を使つての英 作文	能動	○接続詞"when"を使っ て英文を1文書いて みよう。	○感情表現に用いる単語を確 認し，基本文に合わせて自 己表現をさせる。	ピク チャー カード
	5 既習表現を使つての スピーチ原稿作成	能動	○テーマに合わせてこ れまで学習した表現 +今日の1文でスピ ーチの原稿を作成し よう。	○英語が苦手な生徒には基本 例文シートを参考につなが りのある英語の文章を書か せる。 ※言語活動「書くこと」 自分の考えや気持ちが相手 に伝わるように文と文のつ ながりに注意して文章を書 く。	ワーク シート 2
	6 スピーチの練習	徹底	○作成したスピーチ原 稿を読む練習をしよ う。	評価【表現の能力】 B：従属接続詞whenを用い た文章を含む，スピーチ原 稿を書くことができる。 A：従属接続詞whenを用い た文章を含む，つながりの あるスピーチ原稿を書くこ とができる。 【評価方法】スピーチ原稿	
	7 グループ内での発表 及び相互評価，アド バイス	能動	○各グループ内で発表 し，お互いに評価を しよう。	○スローラーナーを中心に机 間指導を行う。	
	8 代表者発表	能動	○みんなの前で発表し てくれる人はいませ んか。	○評価用紙に記入させ，発表 者にフィードバックさせる。 ○発表者を肯定的に評価する。	
終末 1分	9 挨拶	徹底	○ Good bye, everyone.		